

## 動物飼育を積極的にできる教員の養成

理科教育専修・向 平和

### 1. 授業の概観

本授業は学学校教育教員養成課程の教職専門科目である。授業は4名で担当しており、オムニガス形式で実施している。また、ゲストティーチャーとして獣医師と動物園職員を招いている。

本授業の概要を以下に示す。

- 10月13日 第1回 向  
イントロダクション／生活科の概要
- 10月19日 第2回 日詰  
生活科における栽培・飼育(1)
- 10月26日 第3回  
とべ動物園教育係長による講義
- 11月2日 第4回 向  
素材の教材化
- 11月9日 第5回 向  
テーマおよび表現の工夫
- 11月25日 第6回 隅田  
子どもと自然とのかかわり(1)
- 11月30日 第7回 隅田  
子どもと自然とのかかわり(2)
- 12月7日 第8回  
動物病院医師による飼育に関する講義
- 12月14日 第9回 隅田  
子どもと自然とのかかわり(3)
- 12月21日 第10回 隅田  
子どもと自然とのかかわり(4)
- 1月18日 第11回 金子  
自分自身の成長・家族とのかかわり(1)
- 1月25日 第12回 金子  
自分自身の成長・家族とのかかわり(2)
- 2月1日 第13回 金子  
自分自身の成長・家族とのかかわり(3)
- 2月8日 第14回 日詰  
生活科における飼育・栽培(2)
- 2月15日 第15回 日詰  
生活科における飼育・栽培(3)

### 2. 授業評価法

授業の評価としては各授業での活動状況、ミニレポートによって総合的に評価している。

#### 【授業アンケート】

授業の評価アンケートに関しては、「ディプロマ・ポリシーによる授業評価」を活用する。本ア

ンケートは下記の質問で構成されている。

1. 教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。(知識・理解)
  - 1A 教育に関する知識の修得
  - 1B 得意分野の専門知識の修得
2. 教育をめぐる様々な現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)
  - 2A 教育をめぐる現代的諸課題の理解
  - 2B それへの適切な対応策のあり方についての思考力・判断力の修得
3. 教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。(表現・技能)
  - 3A 教育活動に必要な高い技能の修得
  - 3B 教育活動に必要な豊かな表現力の修得
4. 自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)
  - 4A 自己の学習課題の明確化
  - 4B 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲の喚起
5. 専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。(態度)
  - 5A 専門的職業人としての使命感や責任感の形成
  - 5B 多世代にわたる対人関係力の育成

### 3. 授業の結果

一昨年前より、獣医師と動物園職員によるゲストティーチャーを招いていた。獣医師による講義は動物飼育の意義と人畜共通感染症、様々な動物とのふれあいをテーマに構成されている。動物園職員による講義は動物飼育の意義、動物園の活用を中心に構成されている。今年度はさらにテンジクネズミ(モルモット)の飼育を導入している。さらにこの授業中に繁殖させ、新しい命の誕生を実感させることも試みた。図1は飼育活動をまとめたポスターである。愛着をもって飼育活動に取り組めた様子が窺える。

#### 【授業アンケートの結果】

図2の通り、すべての学生が1または2と回答しており、学生は本講義に対して満足していると

考えられる。ただし、アンケート回答学生が少ないこと、オムニバス授業であることを考慮する必要がある。

#### 4. まとめ

今回報告した動物飼育に関する取り組みは他大学ではあまり実施されていない。実際に動物飼育を行い、その意義を考えさせることは大変意義があると考えている。特に小学校低学年にて動物飼育を体験させることができる教員を養成することはさまざまな教育問題の解決につながる方策の一つである。今回、モルモットの飼育において学生が接しやすいように飼育ケースを2号館2階のピロティに配置した。本講義の履修生以外の学生や学外者もモルモットにふれあっていた。授業期間中以外は安全衛生管理上、設置できないとなっているが、教育上の意義として何か対策を講じていきたいと考えている。

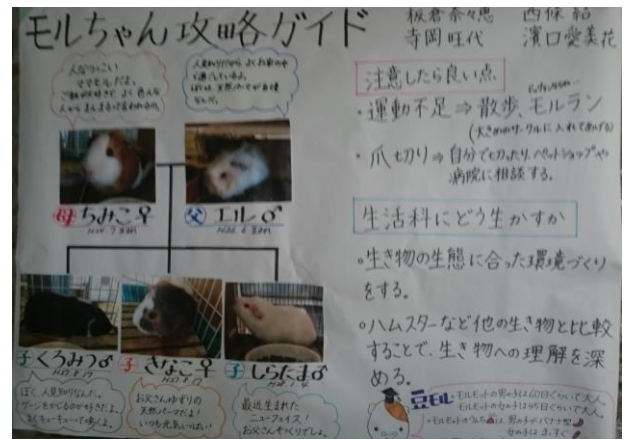


図1 モルモット飼育についてまとめたポスター

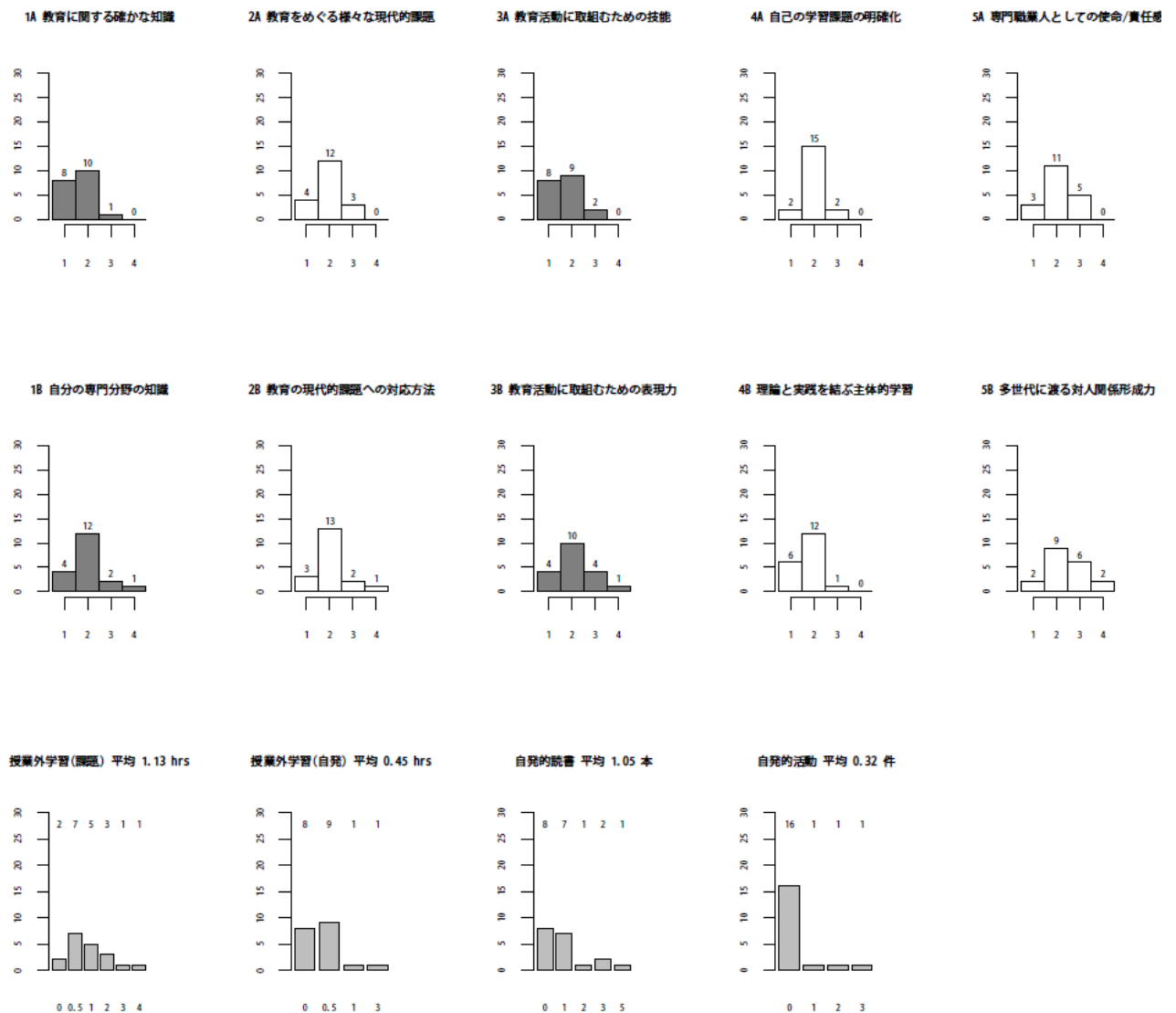


図2 DPによる授業評価結果